

## 日東精工が成長するためのエンジン 「開発研究所」の取り組みをご紹介します

企業にとって成長のエンジンは技術力・開発力です。もちろん販売、広報や管理部門、すべてを併せた総合力が会社の強みとなるものですが、モノづくりの会社で核となるものが「開発力」であることはいうまでもありません。

今号のニュースレターは当社・日東精工の開発思想について、当社研究開発担当役員、足立由紀夫にインタビューしました。



～公表できないことも多々あると思いますが「開発研究所」の役割といますか、どんなことをしているところなのでしょうか。

モノづくりの会社にとって、技術開発は大変重要です。競合他社と比して、よりお客様ニーズ・社会のニーズにあったものを開発していけるか、ひと言でいえばそれに尽きますね。

開発研究所には大きく分ければ2つの役割があります。

まずはファスナー、産機、制御システムの3事業部の戦略をサポートし、各事業部と連携して今ある製品をよりブラッシュアップしていくことです。お客様の要望にお応えしてカスタマイズしたり、改良したり、あるいは既存品をベースに新たなものを開発していくことです。企業として「利益」を上げるということに直結しますので、ここはもちろん、ないがしろにはできません。

加えて、開発研究所として、さらに上位の取り組みとしなければいけないのは、事業部を超え、社としての5年、10年後、あるいはその先を見据えた技術開発です。

例えば、当社では現在「ファスニング・ソリューション」を謳っていますが、これは単なるキャッチフレーズやスローガンではなく、それをしっかり裏付ける技術があるわけです。

今後、「ファスニング・ソリューション」という言葉が、より発展したものに変わるかもしれません

し、あるいは変えなければならないときがくるかもしれません。新たな方向性をと考えるときに、それをしっかり裏付ける技術、あるいは新たな方向性を打ち出していくための技術や製品を開発するのが、開発研究所のミッションだと思っています。

この点で既存の価値観を超えるイノベーションがあったらおもしろいと思いますし、そのためにも研究員はどんどん新しいものに触れ刺激を受け、吸収していったほしいと思います。

～今、話された2つの役割は理解できました。そして多くの研究員がこの2つを同時にこなしていると思うのですが、(こんな表現は適切でないかもしれませんが)、事業部から頼まれたら断れないという状況はないでしょうか。

一般論ですが、誰もが今自分が取り組んでいるこ



展示会などでこれまで出展された開発研究所での開発事例。

とがいちばんの関心ごと、重要課題であり、利益にもつながるようにしたいと考える、そして手が足りないからそれをサポートしてほしいと便利屋のように依頼する。そんな感じで、先輩や同期から頼まれたら断りにくいといったことなどはありませんか？

そのために開発企画という部署を設けました。進めていく研究課題を評価して「今はこれを」「次はこれを」という優先順位を決め、選択と集中をする。基礎研究を優先するとか、あるいはその逆だということではなく、会社の将来像を描きながらそのときどきで会社にとって、何がベストなのかを評価して取り組むべきテーマを選定・企画していくわけです。

また、研究したことをしっかり記録して後日、再評価することも大切です。「やってみただけどうまういかなかった、だから中止した」では何も残りません。うまくいかなかったこともしっかり報告、財産としてデータに残しておく。何年か後に再評価するとそのときは解決できなかった問題が解決できて、画期的なものが生み出せるかもしれないからです。

～足立役員は大手自動車メーカーの中央研究所におられたことがあるそうですが、略歴をお教えいただけますか。また前職でのご経験などがやはり生かさ

れているのでしょうか？

こちらに戻ってくる必要があって日東精工に転職、ロボットに興味があったので、当時スカラロボットを展開していた産機事業部に配属されました。しかし大学での専門が「流体力学」だったので、それならばと、流量計のある制御システム事業部に異動になりました。また開発研究所にも4年いて「自動設計や解析のプログラム」などを開発しました。

さて、後半の質問ですが、自動車メーカーと当社では目指す着地点も企業規模も違うので、そこでのやり方がぴったり当てはまるものではありません。しかし、新しいものを開発していくうえで、優先順位の決め方、開発の進め方などは参考になることもあると思います。当社でこれまでできていた良いことはそのままに、またできていなかったことはできるようにして、新たな「開発への道筋」を再構築していければと思っています。



開発研究所では毎年7月に「テクニカルレポート」を発行しています。この書誌は国立国会図書館にも送られ検索が可能です。日東精工の技術を公開し、日本の産業発展に寄与しています。

## 日東精工のグローバル展開

### 日東ASEAN会議開催&ベトナムから10日間研修生を受け入れ

「日東パワーアッププラン FINAL」ではよりグローバル化を進めることも謳っています。当社にとっての海外進出は、資源や人件費を抑えコストダウンを図るといったものではなく、それぞれの国、現地でも、お客様にとって「お客様満足度120%」を追求するためであり、またその土地土地の人たちがより幸せになることを願ってのもです。

2017年1月31日に京都・綾部の本社にて「日東ASEAN会議」を開催しました。年初は日本で、秋は海外現法設置国の年2回開催しています。日東ASEAN会議は、親会社である日東精工の首脳幹部と台湾、インドネシア(2社)、タイ(2社)、マレーシ



研修中のLe Nguyen Vu(ヌウェン・ヴウ)さん(写真右)

ア、中国の海外現法責任者が一同に会し、日東グループの海外戦略の協議などを行い、グループ全体の成長を図っています。

また2017年1月17日から26日までベトナム「HBC社」の協力を得て現地から研修生を受け入れ、ねじだけでなく、ねじ締め、計測検査まで締結分野でトータルに展開する当社の「ファスニング・ソリューション」を学んでいただきました。

現在、ベトナムには当社の現地法人はありませんが、毎年、展示会などに出席し、すでにベトナムでの事業展開を進めています。経済成長著しい同国との関係は今後、さらに密接となることは間違いありません。

## 世界のファスナー業界誌に 当社の事業が掲載されました

「Fastener Technology International」の2017年2月ー3月号に当社 日東精工の事業が紹介されました。内容は①(株)協栄製作所の子会社化（精密ねじや極小ねじだけでなく扱い領域が増え自動車分野での可能性がより広がる）②昨年10月の日経産業新聞で掲載された当社代表取締役社長材木正己のインタビューが英文で紹介されました。



## ファスナー GSL&PM製品 新規拡販に取組中

日東精工ではこれまで9万種以上のねじを製造・販売しています。一般の方がイメージされやすいねじ頭が十字穴のもの以外にも、用途によっていろいろな材質、大きさ、形状のものをつくっています。下記カタログ表紙の見出しをご注目ください。

『「ねじ」だけでは語れない 日東精工の締結部品バリエーション』の通り、ねじ以外のファスナー部品の新規拡販についても注力しています。ピン類やリベット、複合製品なども、ぜひお声掛けください。



## ☆京都府鍍金工業組合で講演会

2月16日(木)に標記講演会が京都市内で開催され、当社代表取締役社長材木正己が当社の企業理念や、それに基づくブランド力向上のための人づくり、モノづくりについてお話をさせていただきました。



## ☆創立79周年を迎えました

おかげさまで当社は本年2月11日、建国記念の日に創立79周年を迎えることができました。2月10日に本社にて創立記念式典を



創立記念式典で永年勤続や社長賞などを表彰しました

開催すると同時に、2月11日はいわゆるOB会（日東会）も開催しました。これからも先達に負けないう、恥じることはないよう精進してまいります。

## ☆第2回「名古屋機械要素技術展」に出展します

4月12日から14日まで開催される第2回「名古屋機械要素技術展」に当社も出展いたします。

製品の特性に合わせた各種セルフタッピンねじのほか、締結分野のトータルソリューションを紹介する実演・体験コーナーも充実させています。詳しくは当社ホームページをご参照ください。





卑屈な想いであるものではありません  
土下座がもつ本来の意味

〜理想は高く姿勢は低く〜

かつて、いわゆるクレーマーがコンビニ店員に無理難題をふっかけ土下座を強要する映像がネットでアップされ、全国ニュースに流れたことがあります。そんなこともあり「土下座」といえば、謝罪するためのもの、無理を通すための最終手段、どちらかと言えば卑屈なものに思いがちです。

でも本来は尊崇高貴なものに恭順の意を示すもの。伝統ある神社での祭事を見ていると、宮司さんや神主さんの拝礼には土下座が多いです。ぜひ皆さんも一度、正座し、土もしくは床に手をつけ、額がつくほどに頭を下げてください。卑屈どころか、ひたすらに、コトを成就させよう、させてくださいという願いも、心の底から発してくるものです。また、その熱

い想いは、輻射熱のように、相手に伝わってゆきます。もちろん誤解のないように言



このコラムは当社日東精工の人財教育に約40年携わっていただいた経営コンサルタント蒲田春樹氏が監修した言葉や教えを経営企画室で再編集して紹介するものです。なお、当法人財教育を一般向けにまとめた「人生のねじ」を巻く77の教え」(ポプラ社)も版を重ね、また国内だけでなく海外版も発行されています

っておきますが、セールスの場合などで、準備もなく、ただやみくもに土下座すれば受注できるものではありません。先さまのニーズをつかみ、いかに、お役に立てるかという営業提案も用意する。その上で、決定的な瞬間に思わず土下座してしまっている。土下座はスタンドプレーのように意識してするものではなく、無意識で行っているものではない。だから土下座をするときもあれではないときもある。どちらかといえば、しないときのほうが圧倒的に多いもの。しかし、ここで、あえて土下座の精神を強調するのは、人生には何回か決定的な瞬間があるもので、そのとき、その姿勢が取れるだけの度量をもってほしいという意味です。



昭和初期の風景を伝える綾部大橋

ねじのある街・あやべの魅力

綾部市の由良川には「綾部大橋」が架かっています。昭和4(1929)年に架橋され、今年88年目、人間でいえば「米寿」にあたる、時代を積み重ねた風合いがある橋です。観光案内や文化遺産ガイドには「トラストボーリング」「ワレントラスト」構造などと紹介。この字面

だけを見ると、橋や土木の専門家でなければチンプンカンプンですが、つまりは写真のよ



© 綾部市観光協会

うな橋のこと。この工法で現存するものは数少なく、昭和初期の風景を今に伝える貴重な橋として、国の登録文化財に指定されています。

橋は「向こう」と「こちら」を上げる大切な役目を持ちますね。当社もお客様とお客様をつなげる、あるいは現在から未来へとつなげる架け橋であり続けたいと願っています。

ねじ大好き!

コラム

ねじの十字穴をモチーフにした  
スナック菓子

ねじの十字穴をモチーフにしたスナック菓子が2016年秋から発売されています。ねじの形をした鳥「ネジが鳥」が舞台の漫画『ヘボット』(『ころころコミックス』(小学館)で連載、日曜朝7時から同名アニメがテレビ朝日系で放映中)で、主人公のロボットがこよなく愛するスナック菓子を商品化したものです。商品名は『ヘボット! いもチン』。ポテトのサクサクとした食感が特徴の「うましお味」で、全国のコンビニエンスストアなどで購入できます。60円(税別)



番組のホームページは <http://www.heybot.net/>